

自動点呼だけでは見えない変化を、 日々の声からつかむ。

大三ロジテックでは、VOISLOG® をきっかけにした能動的な対話の仕組みづくりが、安全意識とエンゲージメントを高め、自己・離職の改善につながった。



VOISLOG 活用事例

物流業界

株式会社 大三ロジテックさま

自動点呼環境でも、
声を起点にしたコミュニケーションを再構築



「声のデータ」を起点にした適切なフォロー体制の構築により、
前年比で物損事故 **30% 減**、退職者数 **60% 減**を達成。

自動点呼下で不足しがちなコミュニケーションを補完し、現場の安全意識と定着率の改善を後押しした。

背景



自動点呼の時代だからこそ、
対話の質が問われる。

大三ロジテックでは、自動点呼の導入により運行前後の確認は効率化。一方で、ドライバー一人ひとりの微妙な変化や日々のコンディションを把握するための接点づくりが重要な課題となっていた。安全管理と人材定着の両立には、継続的なコミュニケーションの仕組みが必要だった。

運用



アラートを“指摘”ではなく、
“会話の入口”に。

VOISLOG®でアラートが出た際、結論を急がず、まず声がけを行う運用を徹底。「何かありましたか?」「最近どうですか?」といったオープンクエスチョンを中心に、本人の言葉を引き出しやすくした。体調・業務負荷・私生活の変化など、背景要因を自然に把握できるようになった。

工夫



個人レポートに“ひとこと”
を添えて、手渡す。

vManagement から出力した個人レポートを印刷し、管理者が手書きコメントを添えてドライバーへ直接手渡ししている。デジタルの結果を「見ている」「気にかけている」というメッセージに変えることで、現場との心理的距離が縮まり、継続的な対話が生まれた。

効果



早期の安全対策と社内ケアが、
KPI 改善につながった。

この運用により、自動点呼中心の環境でも、ドライバーとの接点が飛躍的に増加。安全対策や社内ケアがより早期に・的確に機能するようになり、物損事故の減少や離職の抑制といった目に見える成果へと結びついた。VOISLOG®は単なる計測ツールではなく、現場マネジメントを前向きに変えるコミュニケーション基盤として機能している。

物損事故

前年比



30% ↓
減

退職者数

前年比



60% ↓
減

※上記は、VOISLOG®の導入に加え、声がけ・手書きコメント付きレポート手渡し等の社内運用を組み合わせた取り組み全体の前年比実績です。

成功のポイント

1

アラート発生時は、
まず声がけ



結論を急がず、声をかけることで
ドライバーの本音を引き出す。

2

オープンクエスチョンで
背景を引き出す



「何かありましたか?」「最近どうですか?」
といった問いで、変化の背景を把握。

3

個人レポートを手渡し、
継続対話につなげる



手書きのひとことで「見ている」
「気にかけている」メッセージに。

VOISLOG® は、声の変化を起点に、現場の安全と定着を支える。

展示会での詳細説明をご希望の方は、お気軽にお声がけください。